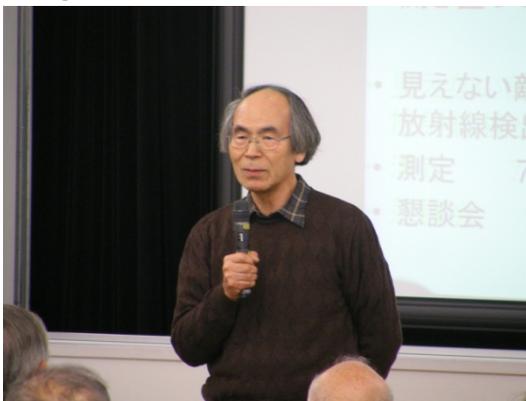


福島原発事故・矢ヶ崎氏講演会に181人参加！ 福島県から里帰りした子育て中の主婦など県外からも参加。

死者・行方不明者2万7千人以上（4月2日現在）、今も増え続ける大災害になった「東日本大震災」。国や電力会社が膨大なテレビコマーシャルを流して「安全でクリーン」と宣伝した原発の安全性は、まさに「神話」でした。国会や住民運動の指摘にまともに答えず、無視してきた国と電力会社の責任が問われています。3月24日から現地にはいって調査した矢ヶ崎克馬氏（琉球大学名誉教授・沖縄県原水協代表理事）が2日、広島で報告しました。



矢ヶ崎氏は、福島県内の畑で実際に放射線計測機ではかったこと、現地住民と懇談したり学習会に参加したことなどをふまえ、①放射線計測機がどこにもなく、住民は「見えない敵」に翻弄されている。②自治体は何をしたらいいか、住民が自治体を動かすようにする。③マスクの支給、生活補償など先を見通し、きちっと要求することが大切、としたうえで、ふりかかる放射線について、できるだけプロテクトしたほうがよいと説明。さらに、「内部被曝」の問題について触れ、数年後に発症するので、予測される影響はすべて補償することと強調。日本政府がアメリカの意向を汲んで内部被曝を認めようとしなかった姿勢を批判、「真理は常に具体的で誠実である」という原点に立ち返り、「被曝を科学し、本



質を見抜く」こと、と訴えました。質疑では10数人が発言。福島から緊急に里帰り避難した主婦が、「夫が仕事で現地にいる。こちらへ来て子どもに会ったら子どもに影響がないか」などの質問に丁寧に答えました。

被災住民の救援と矢ヶ崎氏への旅費カンパ

11万1781円!

会場で被災者への救援募金と、身銭を切って奮闘している矢ヶ崎氏の旅費カンパを訴えたところ、11万1781円が寄せられました。本当にありがとうございます。被災者へは日本原水協を通じて現地へ届けます。また矢ヶ崎氏へは10日(日)に渡す予定です。

日本原水協では、今回の東日本大震災にあたり、被災者救援募金を受け付けています。みなさんのご協力をお願いします。募金の送り先は、

郵便振替 「00110-9-1780」
口座名 「原水爆禁止日本協議会」 です。

※ なお、振り込み手数料はご負担願います。

スイスのテレビ局から取材申し込み!

4日午前、スイスのテレビ局から福島原発の取材に来ているが、広島の被爆者の話が聞きたい、と県原水協へ電話で依頼がありました。すぐ県被団協を紹介、今週中に広島に来る、とのこと。先のフランスのテレビ局(被団協へ直接申し込み)に続いて2件目です。福島原発事故が世界に与えた衝撃の大きさを示しています。